

英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りについて
(会長コメント)

令和元年11月7日
一般社団法人日本私立大学連盟
会長 長谷山 彰

私立大学は、各大学の建学の理念に基づく「アドミッション・ポリシー」により入学者選抜改革を進めてきています。その一環として、各私立大学は、英語民間試験の活用についての検討を重ね、文部科学省からの要請を踏まえ、令和2（2020）年度における英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」導入にかかる方針を迅速に決定し、公表してまいりました。

しかるに、11月1日、萩生田文部科学大臣から「大臣メッセージ（英語民間試験について）」として、“英語民間試験活用のための大学入試英語成績提供システム導入の見送り”が公表されました。私立大学においては、受験生をはじめとする高校生や高等学校現場の混乱が最小限のものにとどまるよう、迅速に対応しなくてはなりません。文部科学省に対しては、早急に大学や高等学校関係者に対し、今般の決定内容や、決定内容に付随した今後の様々な対応方策等について十分な説明を求めます。

また、今後、大学入試英語成績提供システムをはじめとする大学入学共通テストが、大学・高等学校等にとって十分納得して参加できるものとなるよう慎重な検討を切に願います。